

授業科目名： スポーツ（２）	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：渋谷聡、高 木由起子、秋澤一輝、 重藤誠市郎、住本純
			担当形態 オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	体育		
「学位授与の方針」との関係 A から F の項目すべてに該当する。			
授業の到達目標及びテーマ （１）「する」スポーツ（特に自然環境を生かしたスポーツ）について理解することができる。 （２）「みる」スポーツについて理解することができる。 （３）「支える」スポーツについて実践することができる。			
授業の概要 本学開講科目であるスポーツ(1)では、主に球技を通して健康や体力について学修することとなっている。しかし、「する」スポーツには、それ以外にも自然環境を戦術として利用するものや、自然環境の中で行うものもある。また、スポーツとの関わりには、必ずしも「する」だけではなく、「みる」ことや「ささえる」こともある。 本授業では、「する」、「みる」、「ささえる」という観点から、スポーツの奥深さ、面白さ、楽しさ、課題について体験を通して学び、受講者の今後の人生が豊かになるための可能性を探っていく。			
授業計画 第１回：「する」スポーツ（１）自然環境とスポーツの関わり①身体的影響 第２回：「する」スポーツ（２）自然環境とスポーツの関わり②心理的影響 第３回：「する」スポーツ（３）自然環境とスポーツの関わり③社会的影響 第４回：「する」スポーツ（４）自然環境に対してスポーツが与える影響 第５回：「する」スポーツ（５）自然とスポーツの共生 第６回：「する」スポーツ（６）自然と関わるスポーツの実践 第７回：「みる」スポーツ（１）直接的な観戦（ライブ） 第８回：「みる」スポーツ（２）間接的な観戦（メディア） 第９回：「みる」スポーツ（３）２つの観戦の可能性（メリット・デメリット） 第１０回：「ささえる」スポーツ（１）スポーツボランティアとは 第１１回：「ささえる」スポーツ（２）スポーツボランティアの現状 第１２回：「ささえる」スポーツ（３）スポーツボランティアの課題 第１３回：「ささえる」スポーツ（４）スポーツボランティアの実践（生涯スポーツ） 第１４回：「ささえる」スポーツ（５）スポーツボランティアの実践（アダプテッドスポーツ）			

第15回：「する」、「みる」、「ささえる」スポーツの関わり

定期試験

スクーリングでの学修内容

「ささえる」スポーツの課題や解決方法について、グループディスカッションといったアクティブラーニング手法や実践を通して学びを深めていく。(主に第10回～第15回の内容を含む)。

教科書

- (1) 文部科学省『スポーツ立国日本 基本的な考え方』
(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/detail/1297207.htm)
- (2) スポーツ庁『アウトドアスポーツ宣言』
(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1399436.htm)
- (3) 厚生労働省『E-ヘルスネット アウトドアスポーツ』
(<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/exercise/ys-070.html>)
- (4) 環境庁『環境白書 第2節 3 自然とのふれあいを生活の中へ』
(<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h10/10654.html>)
- (5) ニ宮 昌也(2017)『スポーツボランティア読本―「支えるスポーツ」の魅力とは?』悠光堂

参考文献

矢部 京之助、草野 勝彦、中田 英雄 編集(2004)『アダプテッド・スポーツの科学～障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論』市村出版

学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。